

http://www.shika-implant.org/

インプラント
ニュース

ji
since 1972
Japanese Society
of Oral Implantology

第7号

平成20年2月10日発行

Implant News No.7

(社)日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬 編集 (社)日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

Eメールアドレス : jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

第37回学術大会報告, 平成19年度表彰者紹介, 第38回学術大会案内, 研修施設紹介

第 37 回学術大会 3,400 名の参加を得て 盛大に開催される

第 37 回 (社) 日本口腔インプラント学会学術大会が、添島義和九州支部長を大会長として、「専門性あるインプラント治療—インプラントのスタンダードレベルを高めるためのチャレンジ」をメインテーマに、平成 19 年 9 月 14 日 (金) ~ 16 日 (日) の 3 日間にわたり、熊本市で開催されました。

今回の学術大会では、これまでの学術大会参加者の記録を塗り替える、3,400 名を超える参加があり、大幅な躍進を示す本学会として相応しい学術大会となりました。また、会員懇親会は過去最高の約 650 名の参加を得て、盛大に開催されました。

第 37 回学術大会の詳細な報告は、次ページ以降に掲載してありますので、是非ご一読下さい。



メイン会場一杯の参加者



川添堯彬理事長挨拶



多くの参加を得た懇親会

第37回(社)日本口腔インプラント学会・学術大会報告

大会長 添島義和

第37回本学会学術大会は、日本歯科医師会および日本歯科医学会から単一学会としては初めて後援を戴き、「専門性あるインプラント治療—インプラントのスタンダードレベルを高めるためのチャレンジ」のメインテーマで、9月14日(金)～16日(日)の3日間熊本市で開催された。歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士などデンタルスタッフ合わせて3,400名を超える参加があり、熊本城400年祭の年にコンベンションシティを目指す熊本市にとっては記念すべき学術大会となった。

学術大会前日14日(金)は、ケースプレゼンテーション試験に160名の受験者が早朝からつめかけ受付周辺は大変な混雑となり、会場の容量からこれ以上の応募があれば検討すべき問題が多々あると思われた。理事会終了後に行われた日本歯科医学会の江藤一洋会長との懇談会は初めての試みであったが、会長の講演の後に事前に本会理事側から質問を提示してあったので懇談はスムーズに終了した。

専門医教育講座は、伊東隆利氏が「インプラント診療における医療安全推進」を講演、800名を超える参加者が押し寄せメイン会場を埋め尽くす大盛況ぶりであった。

9月15日、シンポジウムI「インプラント上皮界面の病理と臨床」では、井上孝氏、榎本紘昭氏、鈴木真名氏が基礎研究と治療的立場から現時点でのコンセンサスを模索した。川添堯彬理事長の基調講演では、学会の方向性と今後のビジョンが示された。特別講演1「審美領域における修復」では、Peter Wöhrle氏はPES(Pink Esthetic Score)の評価から予知性の高い治療術式を述べた。シンポジウムII「国際セッション」では、Alex Yi-min Tsai氏、Paeng, Jun Young氏、Paulo Malo氏、Siegfried Marquardt氏ら各国の演者が独自のアイデアや臨床成績をEBMに照らして最先端のTopicを講演したので、ディスカッションが盛り上がりを見せて今後の方向性が伺えた。

口演では、課題口演に20題、一般口演は162

題および韓国から6題と合計188題と多数あり、大項目および小項目のジャンル別に会場を振り分けた結果、どの会場も立ち見聴講者が出て活発な討論があった。ポスターは、会員120題および韓国から10題の発表があったが、発表多数で第1日と第2日に分散したことと、会場が狭かったため少しの混乱があったものの、各会場共々超満員状態で盛況であった。しかし2日間同一会場を使用したため、ポスター掲示の時間に制限があったため余裕をもって閲覧できなかった点が惜しまれた。

ミニシンポジウム①「高齢者のインプラント治療に対する考え方とコンセンサス」では、寶田博氏、友竹偉則氏、Rechard Leesungbok氏が今後のインプラント治療の新たな方向性を示した。

ミニシンポジウム②「治療期間の短縮」では、諏訪文彦氏、井上孝氏、菅井敏郎氏が生物学的治療の原則を遵守して、短期治療を行うための基礎と臨床のポイントへの言及があった。

学会認証医、専門医取得に向けた手順、論文の書き方、ケースプレゼンテーションについて藤井俊治氏、諏訪文彦氏、細川隆司氏が解説された教育講演では、会場があふれる程の聴講者が集まり、関心の高さが伺われた。



開会式時の大会長挨拶

16日の特別講演2では、Henry Salama氏が「デザインによる成功：前歯部の審美的インプラント治療における効果的な臨床決定」をテーマに、特別講演3では、Urs Belser氏が「インプラントの審美：我々は今どこにいるか？」をテーマにそれぞれEBMをもとに、安全で最先端の術式を示し、満席の会場を沸かせた。

シンポジウムⅢ「成功のための治療ガイドライン」では、高橋 哲氏、西堀雅一氏、松下恭之氏が特に上顎に対する外科治療・歯周病患者の治療およびオーバードンチャーによる補綴治療に対する臨床と基礎研究について現時点のコンセンサスを模索した。シンポジウムⅣ「Peri-implantitisの予防と対策」では、松井孝道氏、三辺正人氏、辰巳順一氏により基礎研究と臨床術式への取り組みが詳説された。ミニシンポジウム③「インプラント手術支援」では、岡野友宏氏、井汲憲治氏、古賀剛人氏がCTの情報から治療に応用される外科術式支援の情報を述べた。ミニシンポジウム④「大学におけるインプラント教育の現状と展望」では、古谷野潔氏、矢島安朝氏、渡邊文彦氏、永原國央氏、Park Jun Woo氏が大学の卒前教育プログラムと、韓国における卒後教育の現状を解説し今後の方向性を討議した。

今回、公開講座①「インプラント基礎研究者の集い」では、武田孝之氏、高橋常男氏、安彦善裕氏、伴 清治氏、公開講座②「日本歯科放射線学会意見交換の集い」では、佐野 司氏、金田 隆氏、林 孝文氏が講演し、各講座共に会員と演者との活発な討論や意見交換があり聴講者の反応は好評であった。今後は機会を設けて関連学会などとの意見交換を行う時期に来ていると思われた。

歯科技工士セッションでは、特別講演の桑田正博氏が審美的インプラント補綴の長期維持のための咬合管理の必要性を詳述し、教育講演では茂野啓示氏、飯島俊一氏、木村健二氏が歯周環境を配慮した話題のジルコニアCAD/CAMテクノロジーによる審美補綴について講演。聴講者は会場に溢れ外部モニターによる聴講も出て、CAD/CAM補綴の将来を予見するところとなった。講演終了後は、メーカー6社が一堂に会したCAD/CAMのランチョンテーブルクリニックとあって、盛況なセッションとなった。開会に先立ち専門歯科技工士取得について山上哲賢氏の教育講演があり、本制度への関心を高める機会となった。

歯科衛生士セッションでは、特別講演に加藤典氏のインプラント長期維持安定のためのケアプログラムとの取り組みについて臨床上の注意点が解説された。教育講演の奥田克爾氏は「インプラント治療後のサポータビリティセラピー」について、細菌学者としてのEBMを解説した。今回、初めて4名の歯科衛生士による課題講演がありそれぞれインプラント治療の安全推進に対して、歯科衛生士が取り組まなければならない話題が発表され、会場を埋め尽くした聴講者から活発な質疑応答があった。その後、松井孝道氏により専門歯科衛生士取得のための教育講演に対して多くの質疑があり、本制度に対する参加者の関心の高さが伺われた。

市民公開講座では、「かなえよう！インプラントで健康長寿」をテーマについて米満弘之氏、齋藤 滋氏、宝田恭子氏が講演。心の持ち方、噛むことの効果と老化防止、そして表情筋のエクササイズで美容と心身をリフレッシュさせる実習など、すべてがアンチエイジングに直結した内容であ



Urs Belser 教授の特別講演



シンポジウム会場

ったので、700人以上の聴講した市民は大満足の表情を浮かべていた。市民へのアンケートでは、このような企画を年に数回開催してほしいと望む結果がでた。

本学術大会会期中に、入会者が多数あり9月16日現在8,032名となったことが本学会への関心の高さを物語っている。しかし、同時通訳用のレシーバーが10数個紛失したため必要外の高額な出費が発生したり、会場内に弁当箱のゴミが放置されていたので、会場管理者からクレームがつくなど、一部の参加者が医療人としての品格に欠けた点が残念であった。

今後、学会は会員の資質の向上と共に真に患者様のためのインプラントを今一度、考える時期に来ているのではなかろうか？



桑田正博先生による技工士セッションの特別講演



市民フォーラム会場に溢れる参加者

平成 19 年度表彰者紹介

学会特別功労賞受賞者

山上哲賢 先生が学会特別功労賞を受賞されましたのでご略歴等をご紹介します。



山上哲賢 先生

職歴等

1939年1月1日生まれ
大阪歯科大学卒業
大阪歯科大学大学院講師（歯科理工学講座）
大阪歯科大学助教授（歯科理工学講座）
山上歯科診療所開業
京都インプラント研究所所長
大阪歯科大学非常勤講師
新潟大学歯学部非常勤講師
岡山大学歯学部非常勤講師

学会活動

日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部支部長
第14回日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部大会長
日本口腔インプラント学会副会長
(社)日本口腔インプラント学会理事
(社)日本口腔インプラント学会表彰委員会委員長
(社)日本口腔インプラント学会専門歯科技工士委員会委員長
(社)日本口腔インプラント学会専門医・指導医

学会特別賞受賞者

田川 清 先生が学会特別賞を受賞されましたので略歴等をご紹介します。



田川 清 先生

職歴等

1936年6月29日生まれ
大阪歯科大学卒業
名古屋臨港病院歯科勤務
医療法人幸医会田川歯科医院理事長
岐阜大学医学博士の称号授与
岐阜大学医学部非常勤講師
愛知学院大学歯学部非常勤講師
社団法人日本ユネスコ協会連盟理事
名古屋ユネスコ協会会長

学会活動

日本口腔インプラント学会理事
第25回中部支部総会学術大会大会長
(社)日本口腔インプラント学会専門医・指導医
(社)日本口腔インプラント学会指定研修施設長
(社)日本口腔インプラント学会中部支部理事
(社)日本口腔インプラント学会中部支部副支部長

学会特別論文賞受賞者

川原春幸 先生が学会特別論文賞を受賞されましたので略歴等をご紹介します。



川原春幸 先生

職歴等

1919年2月10日生まれ
大阪歯科医学専門学校卒業
大阪歯科大学教授
大阪歯科大学名誉教授
臨床器材研究所所長

学会活動

日本歯科インプラント学会編集委員長
日本口腔インプラント学会常任理事
日本口腔インプラント学会名誉会員
日本口腔インプラント学会功労賞受賞
日本口腔インプラント学会特別賞受賞
第1回日本歯科インプラント学会大会長
第18回日本口腔インプラント学会大会長
(社)日本口腔インプラント学会指導医
(社)日本口腔インプラント学会研修施設長

学会優秀論文賞受賞者



鈴木仙一
医療法人社団ライオン歯科

この度は、学会優秀論文賞という大変名誉な賞をいただき、とても光栄に存じます。

本研究を立案・計画した背景として、近年のインプラント治療技術の進歩が挙げられます。つまり、種々の疾患を有する患者さんにインプラントを埋入する機会も増えましたが、顎骨の骨質、骨量および形態は多様であり、骨代謝疾患を有する患者さんも少なくありません。インプラント治療は、その適応症ゆえに比較的高齢者に施術されることが多く、今後ますます進行していく高齢化社会においては骨質や骨量の不足した、あるいは骨代謝疾患を有する患者さんにインプラントを埋入する機会もさらに増加することが考えられます。そこで、骨代謝疾患モデル動物の一つであるくる病ラットを作製し、近年開発されたマイクロ

CTにて骨の内部構造および三次元的形態を評価すると共に、表面性状の違うインプラント周囲の骨治癒に関して検討を加えることを遂行した次第です。本研究結果として、対照と比較してクル病ラットは薄い緻密骨と不規則で細い少量の骨梁よりなる海綿骨を有していました。また、対照群およびクル病群共に、インプラント埋入後一週間における骨接触率は、陽極酸化処理よりもサンドブラスト処理の方が高い数値を示し、後者が早期に骨結合する可能性が示唆されました。

最後に、本研究が今後のインプラントに関する基礎的研究および臨床の一助になれば幸いと考えると共に、共同研究者の日本大学松戸歯学部口腔病理学講座の山本浩嗣教授をはじめ、岡田裕之講師、浅賀知記先生、中村武夫教授に感謝致します。



山根 進
(社)日本歯科先端技術研究所

この度、日本口腔インプラント学会より学会優秀論文賞をいただきありがとうございました。

日本は現在未曾有の高齢化社会を迎え、歯の寿命も現在伸びていますが、まだまだ人の寿命には追いつけません。それに伴い無歯顎の老人が増加し、口腔機能の低下を招き、当然、総義歯の難症例が増え、総義歯の大家は別として、我々開業医にとっては苦勞の種であります。そういう難症例は、インプラントを支台としたインプラントオーバーデンチャーで簡単に解決できます、インプラントの最大の功績は総義歯で十分咀嚼できなかった症例を簡単にしかも短時間のうちに咀嚼力の回復をはかれるようになったことだと思います。さらに審美的回復も十分可能になってきています。ただ、現今のインプラントオーバーデンチャーの改良すべき点多々あり、その解明のために行った実験を論文としてまとめてみました。その結果、1.インプラントオーバーデンチャーの維持力は

主に測定部位、アタッチメントの種類、数、設定部位によって影響されることが明らかになりました。2.アタッチメント3個設定した場合、どの測定部位においても、維持力はボールが最も強く次いでクリップの順であり、一方マグネットは非常に弱かったです ($p < 0.001$)、どのアタッチメントにおいても臼歯部の維持力は前歯部と比較して弱かったです。3.ボールアタッチメントは、正中に設定すれば1個でも十分維持力を有していました。



土井直洋
東北大学大学院歯学研究科
口腔システム補綴学分野
(医)ドイデンタル原宿クリニック

この度は、平成19年度日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させていただきありがとうございます。本研究ですが、インプラントの長期的良好な予後を左右する要素の一つとして重要な咬合を、力学的観点すなわち歯列上に発現する咬合力の分布および咬合接触の解析から追及したものであります。従来部分欠損歯列症例においては、インプラント上部構造に付与させる咬合は、インプラントが獲得した骨との結合の負担過重回避の目的や、歯根膜の存在する天然歯との被圧変位の違いを考慮し、残存天然歯同士の咬合接触が生じる高さを基準に微小な緩衝隙を付与することが推奨されてきました。しかし、本研究の結果から、顎口腔機能の一つの指標である咬合力分布の観点では、インプラント部には緩衝隙を付与させるのではなく、初期咬合接触を残存天然歯と同等に付与させることが、健常有歯顎者の正常像に準ずる像を得ることができるものと結論されました。本研究の結果が、日常の臨床においてインプラント上部構造に付与させるべき咬合の追及のひとつの指標になれば幸いに思うのと同時に、今後も研究活動を推進してまいりたいと思う所存であります。最後になりますが、本研究の遂行にあたりまし

てご指導ご鞭撻およびこのような機会を与えて下さいました，東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野の佐々木啓一教授をはじめ，当教室員各位には多大なる感謝と御礼を申し上げます。

学会奨励論文賞受賞者



宗像源博
山梨大学医学部附属病院
歯科口腔外科

この度，平成 19 年度日本口腔インプラント学会奨励論文賞を受賞させて頂き，まことに名誉なことであり，感謝しております。

昨年に引き続きましての受賞を賜り，現在所属している山梨大学医学部歯科口腔外科の原田 清教授，新中康史講師，中野佳央助教をはじめとする諸先生方ならびに研究のご指導およびご校閲を賜りました東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント治療部の春日井昇平教授，塩田 真准教授，立川敬子講師，徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面放射線医学分野の誉田栄一教授に心より感謝の気持ちで一杯であります。

本研究はこれまで私が行ってきた QCT 法による顎骨骨密度測定の研究を総括し，骨量と骨質の関連を加味した顎骨の骨質分類を提案した研究であります。本結果を臨床応用することにより，現在臨床に汎用されている Lekholm&Zarb の分類や Misch の分類にとってかわる非侵襲的で定量的かつ客観的な骨質分類法が確立できるのではないかと考えております。

今後，研究の面では顎骨の骨粗鬆症の存否と近年顎骨壊死等を誘発する報告がなされているビスフォスフォネート薬剤のインプラントへの影響について研究をおこない，顎骨骨粗鬆症の診断ガイドライン案を本学会に提案できるよう努力していきたいと考えております。また，臨床の面では口腔外科，歯周，補綴領域のさらなる知識と技術の

向上を目指して頑張りたいと思います。

最後に，これまで自分を支えてくれた先輩，後輩，勤務先のスタッフの方々に深く御礼申し上げます。

優秀研究発表賞受賞者



船木勝介
たけした歯科

この度は平成 19 年度優秀研究発表賞を受賞させて頂き，誠に光栄に思います。

今回，受賞した研究は水平的歯槽骨延長法に関する研究でした。骨造成法の 1 つである歯槽骨延長法は主に垂直的な骨造成法で研究がなされ，臨床でも有効性が示されていました。臨床的には垂直的よりは水平的な骨造成が多く行われていますが，水平的な歯槽骨延長法の基礎研究，臨床研究の報告はほとんどありませんでした。本研究では，水平的に歯槽骨延長した場合，移動骨片が薄いため移動骨片が吸収してしまいましたが，distraction gap には通常どおり骨形成が確認できました。また骨延長法の場合，軟組織の増大が利点として挙げられますが，水平的骨延長法の場合，伸展部位が角化粘膜なため，角化粘膜も増大するといったことも同時に確認できました。角化粘膜の増大は従来の骨造成法では困難なため，臨床的には非常に有効な手法と思われました。

現在では，移植骨を移動骨片にした骨延長法も研究しており，この研究でも移動骨片が吸収してしまいましたが，骨形成は確認出来ました。移動骨片が吸収しても骨形成可能ということは，吸収性の material であれば，同様に骨形成がなされる可能性があり，今後の研究テーマとしては非常に興味深いものがあります。

最後に本研究を御指導頂いた九州歯科大学・形態機能再建学講座・高橋 哲教授ならびに現勤務先のたけした歯科・竹下賢仁先生にも感謝を申し

上げます。両先生ならびに本学会を支えてくださる諸先生の皆様には今後とも御指導御鞭撻を賜りますようお願い致します。



本津茂樹
近畿大学生物理工学部

この度は、「機能複合ナノスケールアパタイト被覆インプラントの骨伝導能の評価」に対しまして第36回日本口腔インプラント学会学術大会・優秀研究発表賞を賜り、大変ありがたく光栄に存じております。選考委員会の諸先生方はじめ関係各位に厚く御礼を申し上げます。

これまで私は、電子材料としての誘電体、磁性体、超伝導体の薄膜作製とそれらの薄膜を組み合わせた電子素子の研究開発を26年間に渡って行って参りました。この研究で培ったエキシマレーザーによる薄膜作製の技術を、ハイドロキシアパタイトの薄膜化に適用したのは今から13年前でした。大阪歯科大学の樋口先生、橋本先生との共同研究を通して、このアパタイト薄膜を人工歯根の生体親和性向上に利用する研究を始めました。それ以来アパタイトの魅力に取り付かれてしまっています。私の作るアパタイト薄膜は厚さが $1\mu\text{m}$ 以下と非常に薄いので、チタン製人工歯根表面に成膜しても、まるでアパタイト膜がないかのように見えます。まず薄膜とチタン基材間の固着強度を90MPaにまで改善し、人工歯根としての力学的生体適合性を確立しました。人工歯根にアパタイト被覆することでチタン単体のそれに比べて骨親和速度を2倍にすることも成功しました。

今回の受賞研究は、このような歯工連携の研究を発展させた成果です。チタンを守る高品質化学量論的アパタイトと生体活性に優れた生体アパタイト薄膜の2積層被覆膜をもつ人工歯根の生体親和性を検討し、in-vivo, in-vitroともにその有用性を確認することができました。本学会が歯科医や歯学研究者の会員が多い中で、是是非非に

工学系の私に賞を与えて下さいましたことは、今後の研究を進めて行く上で大きな励みとなります。この光栄を糧に、機能複合ナノスケールアパタイト被覆インプラントを実用化するために、より一層歯工連携・産学連携研究に取り組んで行きたいと考えております。

デンツプライ賞受賞者



山上哲賢
京都インプラント研究所

この度、平成19年度デンツプライ賞を受賞し、大変光栄に存じております。

今回受賞の対象演題は、「陽極酸化Ti-6Al-4V合金の表面解析」です。この研究は、京都インプラント研究所と岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 生体材料学分野、鈴木一臣教授、吉田靖弘准教授との共同研究で、演者らは1985年に生体内でイオン化しなく、審美的にもグレー色より良い金色の陽極酸化cpTi製プレートタイプ、1990年に陽極酸化Ti-6Al-4V合金インプラントを開発、臨床応用し良好な結果を得ています。すでに本学会で表面構造について報告して来ましたが、今回はごく表面部の解析を行いました。陽極酸化されたインプラントの断面をTEM観察した結果、Ti-6Al-4V母相の表面に陽極酸化処理による酸化膜層が観察され、厚さは140~150nmであった。その酸化膜層は2層に分かれており、母相に近い40~50nmの第1層と、表面に近い100nm程度の第2層が観察されました。第1層、第2層共にアモルファス構造である事が、制限視野電子解析法によりわかりました。第1層の一部にはTi-6Al-4V母相の結晶粒が観察されました。今後表面の原子分布について研究していくつもりです。この賞を得られたのは以下の共同研究者によるものです。ここに感謝いたします。

鈴木 一臣²⁾, 吉田 靖弘²⁾, 黒田 勝博¹⁾, 林 哲平¹⁾, 福岡 幸伸¹⁾, 脇山 智子¹⁾, 深澤 貴子¹⁾, 成之坊 昌功

¹⁾ 京都インプラント研究所

²⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学分野



筋生田 整治
東京医科歯科大学
生体材料工学研究所
バイオデザイン分野

この度はデンツプライ賞という高い評価をいただき、誠にありがとうございました。

ご存知のようにインプラント表面にはセメント質が欠落していることから、インプラント周囲組織のコラーゲン線維はインプラントと平行に走行しており、歯周組織のような機械的結合は望めません。そこで本研究では、インプラント表面にメッシュ構造を付与し、軟組織との結合性を高めることを目的としてラットモデルでの検討を行いました。その結果、メッシュ構造の応用によってインプラントと軟組織との結合強度が向上すること、軟組織中のコラーゲン線維がメッシュ繊維に機械的にアンカリングして有効な応力伝達が行われていること、約 200 μm のメッシュ間隔で最も有効なコラーゲン線維の配向が得られることが示唆されました。

私は口腔外科を専門としていますので、今後は口腔粘膜だけではなく顎顔面再建における皮膚への応用も視野に入れ、臨床へのフィードバックを目指していきたいと思っています。

最後に、本研究の機会を与えてくださりご指導賜りました高久田和夫教授と、小山先生・有田先生をはじめご協力頂いた研究室の皆様がこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

第 38 回 (社)日本口腔インプラント学会 学術大会案内

大会長 相浦州吉

第 38 回 (社)日本口腔インプラント学会学術大会では、「ガイドラインを備えたインプラント治療」をメインテーマとして掲げています。

(社)日本口腔インプラント学会の会員数は現在 8,000 名を超え、関東・甲信越支部においても 3,000 名を超えてまいりました。そしてその数は急激に増加しています。このことから、インプラント治療が歯科治療のスタンダードになってきていることと思われます。そこで、大学での教育等を含めインプラント治療におけるガイドラインの制定を考えなければならない時期を迎えています。

本学術大会は、ガイドラインを制定するにあたって、どのようなことを考えるのかを求めて開催いたします。

ヨーロッパ、アメリカ、アジア各国の演者を招聘し、世界各国の状況についても議論したいと思えます。また、インプラント治療はまさに歯科学の総合治療によって成り立っていますので、他学会との連携の上にとってガイドラインを考えることが必要です。そのために他学会との公開講座をプログラムしています。

以上のような趣旨をもって学術大会を準備していますので、皆様の多くの参加を頂き、熱い議論を期待いたします。

日時：平成 20 年 9 月 12 日(金)～ 14 日(日)

場所：東京フォーラム

プログラム、その他詳細は、本学会誌を参照してください。

今回のニュースレターには、第38回学術大会のポスターを同封しました。患者様やスタッフの方々の見える場所に掲示していただければ幸いです。

学術大会参加申込・演題抄録申込が インターネット化

来る第38回学術大会（平成20年9月12日～14日、東京フォーラム）から、学術大会への参加申込、ならびに発表演題・抄録申込（ケースプレゼンテーション試験を含む）がインターネット化されますので、ご承知おきください。

■登録

インプラント学会では、本システムを継続的に使用していくために、まず皆様方（共同演者も含む）にご自分のデータ登録をして頂きます。早速、学会ホームページにお越しください。なお、登録時には会員番号（雑誌送付時の封筒に記載されている6桁の番号）が必要です。

URL：http://secure.visitors.jp/jsoi/
（ご登録は平成20年2月1日（金）からとなります）

■システムの特徴

1. 学術大会参加申込から演題申込、さらには費用の決済までが一連の流れでWebから行えます。
2. 発表の抄録申込時には、印刷物のイメージで抄録の確認が行うことができます。
3. セキュリティーを高くすることによってクレジットカードによる決済も可能となりました。もちろん従来通り、郵便振込、銀行振込もできます。

■注意

1. 本会への入会がお済みでない皆様方は、非会員としてしか登録できません。
2. 入力時に、お名前が会員番号と異なる場合も非会員での登録しかできません。

■問い合わせ先

（社）日本口腔インプラント学会事務局
TEL：03-5765-5510（代）
FAX：03-5765-5516
E-mail：jsoi@peace.ocn.ne.jp

なお、すぐにお答えできない場合もございますのでご了承ください。（文責：学術委員会）

ケースプレゼンテーション試験 の注意事項

試験委員会委員長 後藤昌昭

本年度からケースプレゼンテーションの様式が改定されました。本学会の専門医および認証医資格の申請には、ケースプレゼンテーション試験の合格が必要となります。平成20年度ケースプレゼンテーション試験は、学術大会前日の9月12日に東京国際フォーラムで行われる予定です。発表できる症例は、上部構造装着後3年以上良好に経過している基本的なものに限ります。ケースプレゼンテーション試験受験者は、事前抄録提出時に以下のすべてを満たす必要があります。

- 1) 日本国歯科医師免許所持者
- 2) 学会会員歴2年以上
- 3) 本会指定研修施設での研修歴2年以上
- 4) 本会認定講習会修了者
- 5) 上部構造装着後3年以上の経過良好症例を提示できること
- 6) 研修施設長の検印を受けた事前抄録が提出できること

ケースプレゼンテーション試験における症例発表は、ポスターで行って頂きます。ポスターには症例の概要（医療面接、診察など）、治療内容（診断、前処置、治療手順など）、経過と考察（術後経過、考察など）、結論、文献（必要なら）を2～3m離れても読める大きさの字（最低でも28ポイント〔ポスターの字が1cm×1cm以上の大きさ〕）で明確に書いてください。ポスターには、術前口腔内写真、術前パノラマX線写真、上部構造装着直後の口腔内写真、上部構造装着3年経過後の口腔内写真とパノラマX線写真が提示されていなければなりません。離れても見える大きさで、明瞭なものを準備してください。また、試験当日は、パノラマX線写真の現物（デジタルの場合は、A4光沢紙へ鮮明にプリントアウトされたもの）を必ずお持ちください。また、口腔内写真、模型などの診断や治療のポイントとなる物があれば、ご持参ください。

平成20年実施予定のケースプレゼンテーション試験の詳細については、学会誌21巻1号に掲載される会告および学会ホームページを必ずご確認ください。

指定研修施設紹介

日本大学松戸歯学部付属病院 インプラント診療所

施設長 加藤仁夫

当病院のインプラント科の歴史は昭和61年にさかのぼります。それまで各診療科で行っていたインプラント治療を一元化し、効率よく診療にあたるためにインプラントプロジェクトチームを設立しました。

現在の口腔インプラント科は平成11年4月に開設され、今年で9年目に入りました。開設当初の名称はインプラント診療科で、スタッフは口腔外科と補綴を合わせて5講座からの選抜メンバー8名と歯科衛生士1名によって構成され、総合診療室の一部を使って診療にあたっていました。その後専用の診療室が与えられ、平成18年4月の新病院棟の開院にあわせ「口腔インプラント科」に名称変更しました。

口腔インプラント科の外来診療室には歯科用ユニット4台、コンサルティングルーム、プランニングルームがあり、主に診査、治療計画の説明、術前術後の口腔内管理、2次手術および補綴処置を行っています。埋入手術は病棟の手術室と口腔外科外来にある外来手術室（4室）、専用待合室、リカバリー室を使用し、全麻による入院処置や静脈内鎮静法によるDay surgeryなど多種多様な状況に対応できるようになっています。現在の診療スタッフは平成17年に開講した口腔顎顔面インプラント学講座のメンバー11名を中心に、補綴科、保存科、歯周科、放射線科、歯科技工士および歯科衛生士など総勢35名の常勤と50名近い非常勤医員で構成されています。口腔インプラント科スタッフが診療するのは主に紹介患者が中心で、紹介患者でない場合はグループ診療として各科担当医とチームを組んで、治療計画や埋入処置の担当として診療に加わります。すなわち当病院において、インプラント治療は特別な治療ではなく、欠損補綴の一治療法として存在しております。口腔インプラント科はその中心的な存在として治療に参画するのが役割になっております。

口腔インプラント科開設からの新来患者数は約

2,500名で、インプラント治療希望患者、経過不良症例の対応患者、メンテナンス希望患者およびセカンドオピニオンの患者などです。平成18年度の手術件数は約320件、フィクスチャー埋入本数は774本でした。

研修施設としての活動は毎週実施している症例検討会、毎月行っているインプラントセミナーならびに手術毎に行っている症例検討など日常の診療を通して研修しております。手術見学などは患者様の協力を得て、積極的に行っており、院内生や非常勤の先生をはじめ多くの方々に開放しております。

今やインプラント治療は特別なものではなくなりつつあります。インプラント治療の基本はクラウンブリッジや有床義歯のように率先して大学で教えるべきだと考えております。

講座長・口腔インプラント科長 准教授 加藤仁夫
(日本口腔インプラント学会指導医・専門医)

医長 専任講師 村上 洋

医員 専任講師 井下田 繁子, 玉木大之, 助教 中台 麻美, 金丸 裕美, 助手 毛塚 和哉, 安岡 沙織, 遠藤 麻衣, 櫻井 甫, 寺西 真理



京都インプラント研究所

施設長 山上哲賢

京都インプラント研究所は、1981年11月に京セラ(株)によりインプラント研究開発、教育、臨床の場として開設されました。

当時、国産インプラントは1975年に川原、山上、平林が開発したBIOCERAMしかなく、インプラントの実績が少ない状態でした。従って、初歩的な失敗があり、これでは歯科の将来のためのインプラントが正しく普及しないと考え、京セラ(株)に相談し教育の場を作ることにしました。場所は、京都駅前の新築新京都センタービルで、100坪に教室、研究室、OPEルームを作り、研究所員3名、事務長、秘書1名でスタートしました。

国内の先生向け研修は7日間コース、外国の先生向けには3～5日間の集中コース、海外からは、オーストラリア、オランダ、スペイン、タイ、台湾、韓国、シンガポール等の先生方が受講されました。また、アメリカ、アラバマグループ(当時J.E. Lemons先生は助教授)Dr.F.D. Misch、トロント大学のProf. D.C. Smith他多くの著明な研究者や臨床家が来所され、情報交換をしました。基礎研究は、研究所員および山上歯科のスタッフがサルや家兎を使用して研究を行い、国内は勿論海外での学会ならびに論文発表をしました。ところが、1991年に京セラ(株)のリストラと研究室が狭くなり、研究所を閉鎖、研究所員は京セラ社員となり、研究設備は京セラの蒲生工場に移設しました。その後、研究所は京セラ(株)から独立、江原雄二君、咲間義輝君、黒田勝博君等が中心となり、研修を受けた先生方と共に山上歯科の資金援助で運営することになりました。現在、資金的にも余裕が出来、竹内宏行君、神田省吾君、村井健二君等が加わり、非常に活気のある活動が行われています。

昨年末にお蔭様で25周年記念式典・パーティーならびに学術大会を成功裡に終わることが出来ました。

1996年より日本口腔インプラント学会指定

研修施設となり、本年12期生が卒業しました。100時間コーススタート時は、受講生が定員に満たない状態でしたが、現在、毎年定員がオーバーし、なかなか希望者全員を受け入れることが出来ない状態です。これも社会的な要求で専門医を目指す先生と、もう少しインプラントの基礎と臨床を勉強したいという先生方が多くなっているのが原因していると思われます。非常に良い傾向だと思えます。

京都インプラント研究所は、研修と受講された人達を中心とした京都インプラント臨床研究会(略:KIA)約225名と研究所所員37名の組織で構成されており、現在KIA会長には、江原雄二君になっており、年2～3回の研究会とKIA誌の発行等を行っております。研究所所員は、岡山大学医歯薬総合研究科生体材料学分野、大阪歯科大学解剖学講座、JMM(株)等との協同研究やインプラント臨床におけるEBMの確立等を行っており、国内外で学会ならびに論文発表を行っております。今後は、多くの専門医、指導医を育てること、本年から始まった専門歯科技工士、衛生士の養成についても努力したいと思っています。

京都インプラント研究所は、現在、指導医3名、専門医8名、認定医11名で、本年、熊本での第37回学術大会で9名が専門医のためのケースプレゼンテーションを行いました。本研究所は、インプラントのみならず人間教育にも重点をおいております。理念は、患者様の「幸せ」を第一に考え、スタッフの物心両面の幸福を追求することを目指すことにあります。100時間コースでは、京セラ名誉会長 稲盛和夫氏のフィロソフィを参考に、人間性を共に高めるように努力しようと言っております。そのフィロソフィとは、「人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力」能力と熱意はそれぞれ0点から100点まであり、考え方はマイナス100点からプラス100点の計算式です。人生・仕事の結果は、考え方が重要で、人間としての正しい考え方をもつことが何より大切であると教えています。

今後とも、諸先生方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

臨床器材研究所

施設長 川原春幸

設立趣意：本研究所は1986年に創設され、歯科臨床に関する学術的な情報提供者として活動しています。設立の基本理念は臨床に役立つ歯科材料・器械の創造と斬新な臨床技法の情報収集と伝達をworld wideに展開し、臨床歯科医の質的向上を図ることです。とくにインプラントについては創設当初より重要課題として取り組み、インプラント夏季大学（1986年）などのone week講座を展開し今日に至っております。1992年度からは口腔インプラント学会の研修施設として認定され、100時間の研修コースを開始し、認証医、専門医、指導医の養成にも努力しております。

組織構成：本研究所は歯科器材臨床研究会（Clinical Association for Dental Materials, CADM）の特別会員がそのバックボーンをささえています。CADMは歯科材料・器械に関する研究を産官学レベルの連携をもとに発展させるべく1986年に創立され、日本歯科産業学会、顎顔面バイオメカニクス学会、美容口腔管理学会などの設立母体ともなり、現在も上記学会の運営発展に協力しています。

臨床器材研究所とCADMの役員構成：

歯科器材臨床研究会会長 中村 義
 歯科器材臨床研究会副会長 三村義昭
 臨床器材研究所所長 川原春幸
 所長代行 川原 大
 名誉講師 松澤耕介、若松陽子

コーディネータ委員長 涌本 昇。コーディネータは認証医、専門医、指導医取得のための特訓を担当しています。

インプラントリサーチ部門主任研究員、呉本時男。本部門では大学の研究室とチームを組んで基礎的研究を遂行し、国内外の学会や雑誌に発表しています。近年は臨床調査の分野でも活動してお

り、その調査結果は週刊文春、週刊朝日、TV関係などに採択され、インプラント技法の大衆社会への理解をより深いものにする努力をしています。

コスメティックリサーチ部門主任研究員、中井宏昌。本部門は1989年以来ホワイトニング分野において日本の美容歯科界をリードしてきたと自負しています。もちろんインプラントは上部構造を美的に仕上げる必要があります。2005年度より久光 久 昭和大学教授（ACOC会長）のご協力を得て活発な活動を展開しています。11月23, 24日, Dr. Daniel Mayeda（USA）とDr. Keith Hayes（UK）をGuest Speakerとして沖縄で年次大会を開催します。来聴歓迎!!

スポーツ歯学部門主任研究員、中北清吾。スポーツと顎顔面損傷の関連性を調査する部門として活動を行っており、これまでにアメリカンフットボール、ラグビー、サッカーなど数多くのクラブチームのプレー中に発現する外傷とマウスガードの関連性を調べ、最近では野球選手の実態調査に乗り出しています。

基礎研究部門主任研究員、川原 大。さまざまな歯科材料と器械に関する情報を整理するとともに科学的な妥当性に基づく情報を所員に提供しています。また臨床で得られたさまざまな資料を材料科学的に調査しています。

日本口腔インプラント学会専門医申請のための100時間コース：

臨床器材研究所は日本口腔インプラント学会が指定する研修施設で、専門医申請に必要な100時間にわたる講習会を毎年開催しています。これまでに多くの認定医（専門医）19名、指導医4名、専門指導者1名を輩出しています。2008年度は5月24,25日、6月14,15日、7月19,20,21日、8月23,24日、9月27,28日、10月11,12,13日、合計14日間、100時間の講義実習の準備をしております。受講希望者は事務局（FAX：06-6993-3311, E-mail：office@icm.ac）までご連絡ください。

新入会者紹介

(平成 19 年 6 月 1 日～ 12 月 27 日)

依田信裕, 河本和郎, 井山禎之, 吉成秀道, 佐藤直志, 高尾眞治, 荻原康平, 萩原 眞,
 小出真理子, 大場志保, 坂本太郎, 佐藤睦子, 藤木正実, 辻関弥生, 有光香奈, 渡辺伸哉,
 神田 亨, 木村五十鈴, 柳 正美, 瀧村武彦, 鈴木美香, 渡邊弘美, 麻生清子, 杉原 誠,
 市川康裕, 坂田岳一, 下地雅一, 清水里香, 石井宏昌, 増井 恵, 矢野道子, 山口真美恵,
 増井綾子, 加藤順久, 大殿浩晃, 本庄浩子, 松山 愛, 神庭由貴, 山本麻衣子, 柿本いづみ,
 寺島武史, 矢部陽典, 藤原意知緒, 五味美也, 山下和子, 中山親一, 日野謙一郎, 荒瀬百合,
 植木雄一, 河野信也, 花田真之, 神谷亜里, 松島沙恵, 坪井将洋, 嶋村由紀子, 手老由香梨,
 篠原こずえ, 田久保智子, 田浦くるみ, 緒方哲也, 小松忠幸, 鎌田浩一, 加藤賢市, 水戸部隆弘,
 福島みゆき, 成田益理, 孝橋 巖, 井原 忍, 鈴木瑞穂, 植木修平, 佐藤香菜子, 岩谷浩史,
 伊藤 邦, 中川正洋, 松岡正道, 俵木 勉, 石岡実記, 堀田静香, 中川 泰, 長光正裕,
 最上清子, 横田達哉, 林千代美, 服部由起子, 渡辺八十夫, 笹栗正明, 池野正幸, 高橋和紀,
 長尾理恵子, 加藤伸吾, 鈴木清美, 木暮ミカ, 大野絵里香, 山田京子, 西尾俊彦, 西川洋一,
 中村乃理, 宮下剛一, 設楽尚紀, 葎矢啓介, 古山一英, 眞宮あさり, 藤尾正人, 山道麻里,
 佐々木美由紀, 増田晃司, 鹿島倫子, 今井みさ枝, 別所知美, 鈴木さおり, 佐々木 早, 佐々木 結,
 倉ヶ崎みゆき, 橋本延子, 逢坂愛美, 曾我芳子, 坂本智壽子, 河添克明, 須ノ内一広, 井上靖恵,
 大澤恵美子, 小山博道, 須川知子, 大野由美子, 木村純一, 村田比呂司, 西村幸郎, 神村崇悟,
 加藤誉之, 繁和さくら, 三浦留美, 半田 太, 小山宏樹, 小野真司, 石山雄一, 大津美穂,
 遠山昌志, 西出文恵, 八木橋隆子, 山本裕香子, 本田貴子, 八巻幸一, 榊 直幸, 藤村香織,
 喜田さゆり, 村上明日香, 吉田貴子, 三田 敦, 坂本慶一郎, 中浜典子, 松井香恋, 板倉さおり,
 甲斐真弓, 村岡有紀, 塩見信行, 光安大輔, 寺戸由佳, 堀野かおり, 樋口かをる, 佐野文香,
 加藤高英, 高鹿憲一郎, 木部真実, 福井磨子, 丸川めぐみ, 鯉江正人, 吉留英俊, 山崎裕子,
 村島真理子, 北島綾美, 北川原 聡, 北川原絵美, 吉田明弘, 八田知之, 國竹活代, 平 曜輔,
 江橋完爾, 村田真由美, 松岡和美, 作田留美, 佐藤芙美, 大塚 卓, 加瀬洋子, 砂原美鈴,
 木村千里, 関 浩二, 坂下好一, 中村拓磨, 岡田真理子, 安田佳子, 内倉友美, 牛島あゆ,
 中村 香, 林 ルミ, 藤城直也, 小豆嶋正典, 高崎敏江, 長倉あゆみ, 栗並容子, 岩崎愛美,
 嶋崎恵子, 宇都宮由希子, 遠藤亜紀子, 河原正明, 渡邊聖子, 西川晴子, 秋山高慶, 落合政幸,
 天野公富, 菅原知佳, 吉井沙織, 戸澤由佳梨, 有馬良治, 牧野友祐, 田倉和也, 横山佳子,
 栗田由季絵, 石田朋敬, 太田晃子, 長田光世, 石倉 聡, 奈木野美保, 杉田あゆみ, 黒木恵子,
 太子芳仁, 奥村朋治, 大島廣昭, 早川正哉, 谷口八起, 中山康弘, 筑丸 寛, 中山真弓,
 飛田達宏, 原田雅史, 川村英司, 曾我部真奈美, 義隆淑子, 吉本正志, 畑村美香, 柘植健至,
 大沢和弘, 佐藤寿美, 曾根香里, 関本桂子, 秀島重典, 石部幸二, 稲澤太志, 坂口真実,
 高木直美, 平出美帆, 吉峰ゆかり, 高橋優子, 磯田 桂, 新井邦行, 田中康二, 西野豊隆,
 大橋 功, 河埜洋子, 伊藤誠康, 嘉数理香, 大野幸恵, 原田晶子, 佐伯弥生, 村山敏明,
 比嘉こずえ, 平野千尋, 藤 史恵, 松田絵莉, 田中健雄, 新保 悟, 磯山素子, 近藤大介,
 高山由香利, 河野章江, 片山知子, 田中亜紀子, 三浦一恵, 高木浩二, 三條貞夫, 矢野正敏,
 白坂聖子, 橋詰梨沙, 坂本和子, 奥野由加里, 川鍋正敏, 和田匡史, 児玉良介, 原 憲史,
 朝野清美, 田島毅士, 加藤佐知子, 中崎 裕, 山本雅章, 安達広太郎, 杉原てる子, 堀江智子,
 佐藤光男, 今井瑞恵, 松本亜美, 田上隆一郎, 夫馬吉啓, 島山忠臣, 荻原浩樹, 大塚 舞,
 井上真理子, 本岡路都子, 田中恒大, 宮原千恵, 館林 茂, 瀬良郁代, 糠澤真吉, 朴 一根,
 庄司 晃, 中村清志, 中西久人, 愛川敦子, 足立哲也, 大田政生, 須山祐之, 加登山千恵,

後藤まつみ, 青柳和孝, 澤田こずえ, 原 隆史, 鈴木朋美, Kamolpan Pugdee, 竹内大策, 懸樋 剛,
 大野佑佳, 柴田雅志, 日江井 眞, 野口賢治, 清瀬千夏, 三木裕子, 手島尚美, 堀 久美子,
 高松由貴江, 福井聖治, 荻野泰志, 大西陽子, 根石美和, 道畑晶子, 佐々木杏奈, 山田梨加,
 寺山雄三, 細井秀男, 入江皓平, 奥津 達, 高倉克博, 大高幸恵, 廣澤英夫, 中原恒夫,
 田中利尚, 野田和宏, 松本秀樹, 中川主夫, 田村光正, 松尾寛子, 中根くに子, 三上貴代,
 弓場光泰, 衆野浩一郎, 中辻秀明, 長縄拓哉, 細田眞理, 大塚仁美, 高木幹夫, 下村知子,
 高橋秀直, 古田博一, 飯沼英人, 則武加奈子, 前田 舞, 加藤三千代, 奥野幾久, 安藤貴則,
 伊達佑生, 西原一成, 楠 孝司, 山本明義, 小寺 修, 志村智美, 辻井 孝, 入江 舞,
 宇野悠子, 篠原正徳, 深谷拓司, 丸橋幸信, 山手貴義, 境野秀宣, 荻田匡樹, 重田崇至,
 貝塚浩二, 河尻克己, 岡 俊男, 志田哲也, 小川芙美, 唐木俊英, 上里史絵, 廣澤淑子,
 大河貴久, 会田富士子, 中井アヤ, 薬師寺 毅, 浅賀 綾, 遠藤麻衣, 島貫靖士, 池邊一典,
 重政和仁, 緒方由実, 玉利正之, 高村宗俊, 香川良介, 細田千香子, 岩田久之, 塚本由美子,
 平沼光 守, 川辺良一, 森山 聖, 山下 巖, 古田 哲, 東藤 貢, 小島武郎, 嶋田典子,
 深山治久, 青山達也, 藤田秀彦, 新谷明一, 藪押幹人, 服部盛彦, 亀井英志, 山田貴子,
 中村さやか, 小坂好史, 桜井伸子, 坂本 裕, 河合貴子, 春田明日香, 和田誠大, 別府健介,
 南 昌美, 高木宏純, 原 一史, 青木 章, 井上博伸, 関 勇治, 鈴木敦子, 河北貫次郎,
 水谷幸嗣, 遠田耕作, 関 健次, 森 章一, 藤原 広, 奈良井 節, 三橋淳也, 楊 磊,
 笹原義和, 北山美穂, 松本理基, 今野賢克, 山脇健史, 荒木 隆, 板橋正憲, 福岡 力,
 牧野智優, 岡 歳浩, 松岡英生, 太田宏彰大, 森川充康, 伊東有史, 小田裕二, 野崎久美子,
 久保章朗, 高木智幸, 久次真弓, 阿川洋一, 林 秀樹, 折居恒典, 林 邦彦, 馬場俊輔,
 岡村阿沙子, 大塚和美, 小沼恵子, 鈴木敦子, 龍井之代, 新井貴子, 浅野弘樹, 河内洋順,
 横田宜久, 田村裕司, 齋藤雪絵, 里 美香, 渡辺和泉, 木村彰利, 岩渕公子, 真鍋忠雄,
 長尾晴美, 小谷友美, 佐藤 優, 難波圭司, 荻原 道, 佐藤要介, 山崎弘士, 仁木 寛,
 新谷明喜, 高崎アリス, テオ淳志, 岸田幸恵, 高橋慶壮, 富永博之, 小笠原延郎, 長谷川有紀,
 阿部俊宣, 陳 宗祐, 諏訪一郎, 高山純一郎, 黒坂昌弘, 橋爪 文, 林 美登, 江崎杏奈,
 山崎佐満人, 北沢 伊, 江戸馨一, 尾谷始子, 芦田裕樹, 芦田保幸, 古森孝英, 川合幸代,
 小野武彦, 菊池重成, 早瀬寛子, 山田詠美, 酒井良忠, 中村麻友子, 岩倉 崇, 三輪雅彦,
 本間裕美, 鈴木絵梨, 小松原浩実, 國分克寿, 新倉隆宏, 大江啓介, 小林優子, 大竹香織,
 土井知二, 大川秀樹, 渡辺伸一, 轟 紀五, 渡辺明博, 高塚茂行, 増田 梢, 茂木元介,
 宮腰正基, 前田慶子, 工藤浩幸, 三原 学, 石井浩之, 多田恵泉, 前川沙織, 伊藤友美,
 大石直輝, 有田隆之, 白土 徹, 加納裕子, 西川 舞, 荒井真穂, 西村美鶴, 柴田直美,
 別所史博, 常岡由美子, 山田 恵, 枝次由美子, 佐藤敦子, 森下芳美, 芦野千裕, 向出圭子,
 田松裕一, 松原弘昌, 相川直輝, 土居冬季子, 中西香織, 吉川敦子, 近藤紀之, 船越玲央,
 奥 一, 富塚佳史, 佐藤亜矢子, 佐藤博章, 岩本由香里, 中村 心, 大塚武仁, 田中栄次,
 石川元洋, 内野文彦, 稲田有紀, 刀根 功, 吉田創介, 東山さおり, 柿崎 税, 宇都宮美香,
 梅野かおり, 鈴木俊英, 入江悦子, 寺西真理, 北見保子, 尾崎秀成, 森 康有, 藤浪庸介,
 松下幸誠, 青木真一, 齋須幸司, 矢尾和紀, 佐藤 博, 菅田司郎, 菅井正則, 久保倉弘孝,
 野口 誠, 高峰容子, 田上文子, 堤 純子, 宮崎功一, 野添悦郎, 丸山文孝, 鬼頭信介,
 武知幸久, 松澤弘之, 中村敦子, 高牟禮志帆, 田岡秀教, 久木田忠生, 稲本良則, 藤田 勲,
 西山美保, 池田真美, 赤木智子, 槌道めぐみ, 鈴木智子, 渡邊恵子, 児玉慶枝, 合田征司,
 北川奈弓, 大久保和之, 吉田和正, 中野佳央, 健石英夫, 片桐貞斉, 尾崎 均, 中原達郎,
 長谷川 充, 永山賢治, 前田由紀恵, 越前谷澄典, 加藤 洋, 大竹史浩, 福島三喜夫, 石井公仁,
 木村智子, 新名正明, 寫本美賛, 南 唯廣, 川井満章, 湯川 実, 山内 洋, 大山勢津子,
 崔 賢珠, 大塚恭子, 新木恒猪, 金村泰成, 杉本泰伸, 山本良実, 時田直人, 長田紀子,

野村義明	柏原安孝	浜口宏美	吉田恵理	鱈淵正機	高濱 勉	東 宗秀	菊池光久
兼子賢之	栗原幸司	日山 孝	津元浩光	十川悠香	平林 剛	有井貫氏	鈴木正孝
川崎靖典	陳 資史	小笠原美由紀	小林雅代	水本知里	小北智継	高橋有利子	三木 州
旭 雄一郎	田川 徹	安井 章	岸本省三	榊原啓太	阿部哲夫	有馬良輔	作本真一
情野絵美	足立識之	木村聡志	小枝浩幸	田中 実	日浦伸二	徳永 剛	鈴木浩司
野坂明寛	西田健一郎	近藤英司	小田泰平	藤原めぐみ	植木紘子	杉岡卓郎	馬越智弘
森永宏喜	遠藤裕一	上原敏知	村瀬俊彦	中村 始	川上明子	高橋桂子	河崎直也
鶴 美紀	渥美元康	後藤田雅之	大西吉之	羽藤伸一	真杉幸江	茂原倫朗	松井亮二
木村郁子	上木耕一郎	相場隆広	水野隆一郎	福田奈緒美	西森彰子	三木千津	宮本高英
蓑輪隆宏	廣野善文	鈴木深雪	林 佑樹	梨野宏文	河島光伸	松田恵子	中原裕二
林 敬人	森山千亜紀	斎藤友美	濱田和家	服部慎太郎	水町幸恵	副島恵美子	関 あけみ
市原秀記	伊藤優子	中島郁美	矢田はるな	宮本誠子	坂口優子	近藤 誠	岩松恵美
櫻田博昭	鄭 尚賢	原田光佑	本橋 研	田村 直	盧 潤二	佐藤耕己	福谷能史
伊藤智恵	森山憲一	木村哲也	渋谷幸子	添島賢一	佐々木 憲	西山愛子	森永裕香
毛受由佳	安澤 恵	中條孝則	花岡裕紀	松本千佳	所 敬雅	深見希美江	谷口千寿子
寺尾俊明	猪原吉恵	市原由加里	西村芳明	室塚誠司	高田愛子	興梶千昌	富田義晴
西 一幸	大門弘治	金田憲尚	小松秀彦	西本周平	難波一郎	葛西純子	平田貴士
大月 晃	藤本和泉	田邊友美	二村彩乃	義川耕平	松嶋昭夫	下田 徹	渡辺重視
延田万里	片倉 朗	柿原秀年	林 健一郎	森瀬卓也	若松義昌	大川勝紀	椋梨 節
藤縄早苗	福田啓輔	柳 孝一郎	柳 壮二郎	大山 満	福田美香	中森百恵	森崎弓子
齋藤 恵	島寄 薫	田中絵里子	大林弘治	宮原佐和子	太田直子	垂水由紀子	成田裕貴美
石川文洋	畠中龍生	森田淳平	浅野庸行	大塚登美	田中 梢	西村彰子	原尾美沙里
山根利恵	伊藤明子	奥平紳一郎	細川直哉	鈴木絵梨子	猿渡貴子	前田美智恵	波多野みか
石川亜美	小久保和彦	吉田佳世	大谷一紀	森 幸恵	塚野奈緒	川下さやか	斉藤亜澄
長谷川 充	林 輝嘉	秋元善次	上倉章宏	大賀亜由美	立花しのぶ	園村友里	穂垣幸枝
佐藤文哉	中村 忍	中山行雄	市川裕文	上田幸子	村上美穂子	小林寿美子	河野富久子
日高隆司	緒方哲也	柳 正洋	堤 大輔	富崎美登利	草野利恵	井上聡子	山村美子
山崎さとみ	横関雅彦	木藤久嗣	原 健二	鈴木紀子	村上智穂	東 磨衣	水本 優
佐藤崇哲	福田典大	柏木敦博	百瀬 保	吉村知寿子	飯星 舞	吉武孝弘	久保亜紀夫
中野浩輔	東海林大輔	三宅一永	早川秀寛	吉田裕司	蒔田哲也	吉村健太郎	高木美千絵
松友豊伸	土佐茂之	鹿山 誠	石原まりも	高村奈津美	武笠 憲	三谷明弘	高城秀典
馬場一美	世良 仁	大塚正之	酒向孝彰	田中宏幸	石川昌嗣	都築 尊	高橋 元
田中禎彦	中山貴博	岩田健悟	叶原正章	佐々木 朗	藤岡洋記	畑野有紀	山下泰治
鳴海 恵	近藤かな子	阿部真由美	萩原勝雄	岡田一介	黒田 暢	菊地欣光	山本聡子
平井俊之	深瀬公彦	佐名川 徹	井上雄二	柳井樹里	有留涼子	山下詠子	福嶋克明
藤原えり	高橋敏史	伊藤 慎	大野 徹	中井美香	庄 慶彦	平山圭史	村田耕一
山本哲義	寺浦康夫	中野 透	山川裕史	宮島睦子	美録恵美	安永み佳	矢崎芳人
堀口浩治	若井田崇浩	重永基樹	高倉洋一	森岡俊行	飯田清美	赤松栄之	永澤義安
富沢尚夫	服部行孝	樋田秀一	藤井裕美	河野宏和	潮 るな	鈴木麻美	山富直美
瀬口真弓	坂本 泉	西村嘉展	阿部祐幸	野中友紀子	西本久美	加藤恵三	藤井 論
長澤成明	村野嘉則	高木 由	今西正史	青木 仁	山中豊司	浅野正敬	廣木愛実
辻 耕造	綿谷武彦	宮井大介	田中 隆	長野靖弘	市川貴士	張簡敬哲	高橋英樹
石崎 礼	市来正博	小林茂麿	今崎佳昭	伊丹宏之	外村真紀	河野純子	朝来野陽子
肥田孝文	齋藤真樹子	芳譯のぞみ	木下雅恵	山口 忍	鈴木美穂	伊藤広み	長興真理子

- | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--------------------------------------|
| 田中さゆり, 井上貴詞, 江頭祐子, 真部寛登, 加藤俊治, 白石友信, 鮎瀬公彦, 田村大輔, | 松元真理子, 熊澤明奈, 馬場美春, 岩田真名美, 橋谷田賢司, 松田洋子, 杉田真弓, 藤田憲一, | 岩下栄木, 荒木 淳, 溝添正隆, 大久保千秋, 田中絵美, 那須郁子, 柘井明美, 元谷美鈴, | 川畑春美, 佐々木脩浩, 岸本博人, 河田有祐, 平岡幸恵, 土居正典, 坂田輝之, 玉木裕子, | 菊池洋之, 松野 武, 大久保直尚, 城塚和子, 高橋康治, 真岡昌代, 橋本英樹, 佐野 司, | 横山千穂, 河本雅裕, 今鷹総子, 小田健司, 木藤裕樹, 森 亮太, 上田秀之, 豊嶋信夫, | 小野孝治郎, 岡 知道, 佐本達彦, 坂本伸寛, 田辺あかね, 藤田 有, 宮本伸代, 山口能正, | 佐藤美紀, 上杉永青, 小澤 仁, 長 優子, 荒瀬百代, 杉本未来, 柄原康子, 穴井由美, | 山下善弘, 秋山剛久, 岸本幸康, 松永常典, 土田郁恵, 後藤稔子, 那須瑠美, 桑田由美, | 瀬戸浩行, 長屋仁美, 小川弘純, 中村利明, 大沼洋子, 田村直子, 坂口 賢, 澤田智滋, | 澤田智史, 白木美穂, 志賀麻紀, 草光貴子, 入江 剛, 南 康朗, 松島寛忠, 小林千代, | 山元祥輝, 長谷川 孝, 鈴木 等, 櫻井利浩, 瀧澤麻利, 横関雅彦, 木等久嗣, 原 健二, | 池田明日香, 五十嵐 隆, 市川涼子, 太田幸典, 鹿山 誠, 福田典大 |
|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--------------------------------------|
- (以上 1,191 名)

訂正 (お詫び)

6号に掲載いたしました平成18年度指導医・認定医合格者の中で所属先の誤りがございましたので訂正させていただきます。誠に申し訳ありませんでした。

認定医	誤	正
丸山利彦	京都インプラント研究所	臨床器材研究所
保田垂起	日本インプラント研究会	日本インプラント臨床研究会
難波勝文	総合インプラント研究センター	(社)日本歯科先端技術研究所



製品の特長

- ・高い精密加工技術を誇るスイスですべての製品を製造
- ・症例やニーズに合わせて1回法と2回法の選択が可能
- ・インターナルHEXを採用し、審美性と安定性を実現
- ・高い初期固定と手術時間の短縮を実現したセルフタッピングスレッド
- ・症例に応じて選択できる多彩なインプラント・補綴パーツをラインナップ

※ご購入・ご不明な点がございましたら、当社及び営業担当までお問い合わせください。



SPI[®] System
Swiss Precision Implant



A RELIABLE PARTNER FOR RELIABLE IMPLANTS.

医療機器承認番号 21600BZY00706000 21700BZY00456000

製造販売元 **株式会社 アスバックヨーロッパ**
A RELIABLE PARTNER FOR RELIABLE IMPLANTS.
本 社 大阪府吹田市江坂町1-23-28 (江坂南口ビル) 〒564-0063 TEL: 06-6384-6921
東京営業所 東京都台東区上野2-11-15 (株式会社モリタ内) 〒110-0005 TEL: 03-3834-6165
www.aspac-co.co.jp

発売元 **株式会社モリタ**
大阪本社 大阪府吹田市豊水町3-33-18 〒564-8650 TEL: 06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL: 03-3834-6161
www.dental-plaza.com

JMM JAPAN
MEDICAL
MATERIALS

A Kyocera and Kobe Steel joint company **KYOCERA / KOBELCO**

POLEX

(POI ファイナフィックス 医療機器承認番号 20300BZZ00313000)
(POI ファイナタイト 医療機器承認番号 20500BZZ00083000)

診断から

治療まで



歯科用CT装置

PreVista
(3-in-1 unit)

(医療機器認証番号 219AABZX00179000)

日本メディカルマテリアル株式会社

大阪市淀川区宮原3丁目3-31 (上村ニッセイビル9F) 〒532-0003
Tel:06-6350-1036 Fax:06-6350-5736

<http://www.jmmc.jp/>

東京支社 東京都新宿区西新宿2丁目4-1 (新宿NSビル10F) 〒163-0810

Tel:03-5339-3627 Fax:03-3343-3096

名古屋営業所 Tel:052-930-1481 Fax:052-938-1377

大阪営業所 Tel:06-6350-1017 Fax:06-6350-8157

九州営業所 Tel:092-452-8140 Fax:092-452-8177



第3世代 インプラントロー

日本から世界へ…
マイティスアローインプラント

B B C 株式会社 ブレーンベース
〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 米山第2ビル6F
TEL 03-3778-0745 FAX 03-3778-4910
承認番号 21500BZ00187000

広報委員会からのお知らせ

前年度に引き続き春日井昇平（東京医科歯科大学）が委員長を務めます。現在の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：春日井昇平
副委員長：五十嵐俊男

委員：山内六男， 嶋田 淳， 十河基文，
内藤宗孝， 北川 昇， 土屋直行

今後とも広報委員会は、ニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致しますので宜しくお願い致します。ご意見，ご要望等ございましたら，以下の連絡先にご連絡ください。

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学
春日井昇平
電話 03-5803-5934
ファックス 03-5803-5934
メールアドレス：kas.mfc@tmd.ac.jp

GC

GENESiO Debut

インターナルフィクスチャー「ジェネシオ®」を加えたジーシー インプラントシステム™Re(アール・イー)™。2つのシステムが臨床の幅を広げます。



GC IMPLANT SYSTEM Re
internal implant GENESiO
external implant SETiO

株式会社 ジーシー
www.gcdental.co.jp/

Happy Smiles & Heartful Communication



3DX FPD - Full Digital System
三次元デジタル時代、はじまる。

3DX MULTI-IMAGE MICRO CT FPD
スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT

新世代のデジタルX線センサー「フラットパネルディテクタ (FPD)」搭載。少ない線量で高品質な三次元画像を提供します。インプラント、根尖病巣、顎関節、埋伏歯などの幅広い精査、診断が可能。

- 切替可能な撮像領域 φ40×H40mm・φ60×H60mm
- 撮像領域が大きくても高解像度を維持 ボクセルサイズ0.125mm 解像度2.0lp/mm
- 軟組織から硬組織まで描出 広いダイナミックレンジと豊かな階調表現能力
- ワンタッチビューアソフト ■ ボリュームレンダリング表示
- 院内ネットワーク対応


販売名 スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT
標準価格 30,000,000円 2006年5月21日現在 消費税別途
医療機器承認番号 21200BZZ00757000

MORITA

発売 **株式会社モリタ** 製造販売・製造 **株式会社モリタ製作所**
www.dental-plaza.com


目 次

本号のトピックス	
第 37 回日本口腔インプラント学会・学術大会報告	2 ~ 4
平成 19 年度表彰者紹介	
学会特別功労賞受賞者	4
学会特別賞受賞者	5
学会特別論文賞受賞者	5
学会優秀論文賞受賞者	5 ~ 7
学会奨励論文賞受賞者	7
優秀研究発表賞受賞者	7 ~ 8
デンツプライ賞受賞者	8 ~ 9
第 38 回 (社)日本口腔インプラント学会学術大会案内	9
学術大会参加申込・演題抄録申込がインターネット化	10
ケースプレゼンテーション試験の注意事項	10
指定研修施設紹介	
日本大学松戸歯学部付属病院インプラント診療所	11
京都インプラント研究所	12
臨床器材研究所	13
新入会者紹介	14 ~ 17
広告	17 ~ 20
目次	20




**SHORT
IMPLANT**


6.0mm




6.0 x 5.7mm
Uncoated




6.0 x 5.7mm
TPS Coated



Bicon 6.0x5.7mm short implant
埋入直後



同 implant 埋入後10年




bicon
DENTAL IMPLANTS
Sensible Implant Dentistry Since 1985

バイコンジャパン株式会社 フリーダイヤル 0120-8150-62 <http://www.bicon.co.jp>




zimmer | dental
Confidence in your hands™

Screw-Vent
& **SwissPlus**




承認番号：21300BZY00036000
21000BZY00212000
21800BZY10050000
21300BZY00037000

製造販売元 / 販売元



株式会社 インプラテックス

製造元



zimmer
Confidence in your hands™
dental